

2020年6月10日 発表

社会人2～4年目に聞く  
子供の頃のキャリア教育と  
就職活動に関する調査

**株式会社アイDEM**

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月 電話 03-5269-8780 [kouhousitu@aidem.co.jp](mailto:kouhousitu@aidem.co.jp)

調査担当 / 東日本事業本部 データリサーチチーム 小杉・古橋

# 目次

調査概要	・・・	p . 3
1 小学校5-6年生当時 親の職業を知っていたか	・・・	p . 4
2 小学校5-6年生当時 将来就きたかった職業	・・・	p . 5
3 小学校5-6年生当時 家庭であったキャリア教育の機会	・・・	p . 6
4 学校で体験したキャリア教育のイベント	・・・	p . 7
5 現在の考え 今の仕事の充実度	・・・	p . 8
6 就職活動当時 志望業界と志望理由	・・・	p . 9
7 就職活動当時 志望業界を意識した時期	・・・	p . 10
8 就職活動当時 志望職種と志望理由	・・・	p . 11
9 就職活動当時 子供の頃になりたかった職業・専攻・親の職業と志望職業の関連	・・・	p . 12
10 就職活動当時 利用サービス・ツール	・・・	p . 13
11 就職活動当時 就職活動での自分の行動や状況	・・・	p . 14
12 就職活動当時 企業選定で重視していた／いなかったもの	・・・	p . 15
13 現在の考え 今思えば、就職活動当時に「重視しておけばよかった」もの	・・・	p . 16
14 現在の考え 就職活動当時の自分へのアドバイス	・・・	p . 17
15 就職活動当時 就職活動の反省や後悔	・・・	p . 18
16 就職活動当時 相談相手	・・・	p . 19
17 就職活動当時 子供の頃に親や学校から受けたキャリア教育は活かされていたか	・・・	p . 20
18 【FA集】就職活動当時を振り返って	・・・	p . 22

# 調査概要

## 調査目的

社会人2~4年目の方に、子供の頃に受けたキャリア教育と就職活動当時の考えや行動を振り返ってもらい、キャリア教育が就職活動に影響を与えたのかを調査する

## 調査対象

大学または大学院卒で当時就職活動をし、初職が正社員・正職員だった社会人2~4年目の男女

## 調査方法

インターネット調査

## 調査期間

2020年4月17日~18日

## 有効回答

938名

## 回答者内訳

性別	n	%
男性	327	34.9
女性	611	65.1
計	938	100.0

最終学歴	n	%
大学卒業	834	88.9
大学院卒業	104	11.1
計	938	100.0

年齢	歳
平均年齢	24.8

現在の雇用形態	n	%
正社員	840	89.6
契約社員	27	2.9
パート・アルバイト	58	6.2
派遣社員	13	1.4
計	938	100.0

居住地	n	%
北海道・東北地方	52	5.5
関東地方	490	52.2
中部地方	135	14.4
近畿地方	162	17.3
中国・四国地方	44	4.7
九州・沖縄地方	55	5.9
計	938	100.0

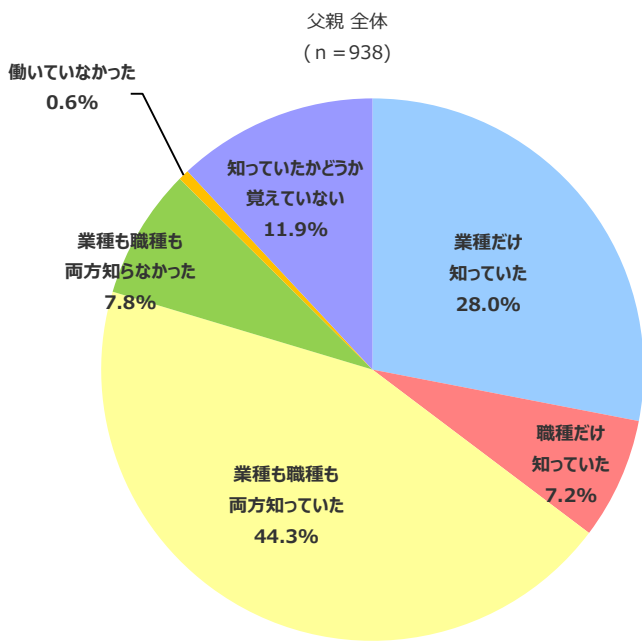
卒業年	n	%
2017年3月（社会人4年目）	352	37.5
2018年3月（社会人3年目）	330	35.2
2019年3月（社会人2年目）	256	27.3
計	938	100.0

- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

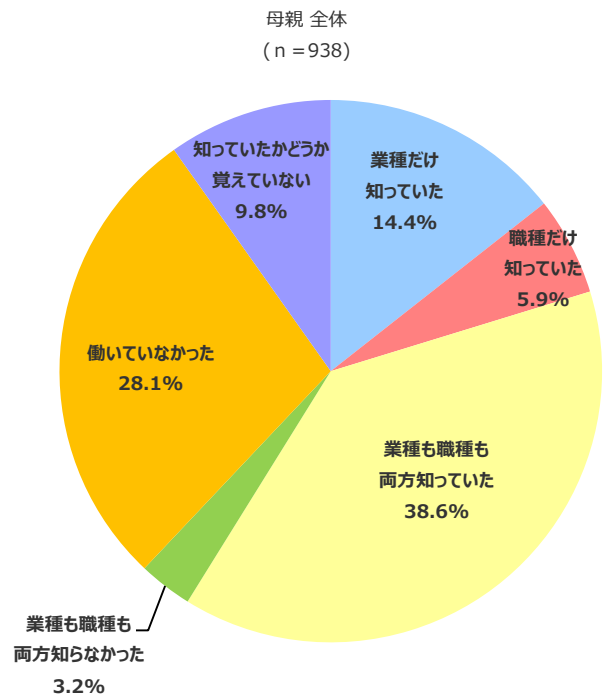
# 小学校5-6年生当時 親の職業を知っていたか

社会人2~4年目の方に、小学校5-6年生当時に親の職業をきちんと知っていたかを聞いた。  
 父親については、「業種も職種も両方知っていた」が44.3%、「業種だけ知っていた」28.0%、「職種だけ知っていた」7.2%だった（図1.1）。  
 一方、母親については、「業種も職種も両方知っていた」が38.6%、「業種だけ知っていた」14.4%、「職種だけ知っていた」5.9%だった（図1.2）。  
 働いている父親や母親の職業について、4割前後が業種も職種も両方知っている結果となった。

【図1.1】父親の職業



【図1.2】母親の職業



## 小学校5-6年生当時 将来就きたかった職業

社会人2~4年目の方に、小学校5-6年生当時に「こんな職業に就きたい」という夢があったかを聞いたところ、「あった」が51.7%と過半数となった。

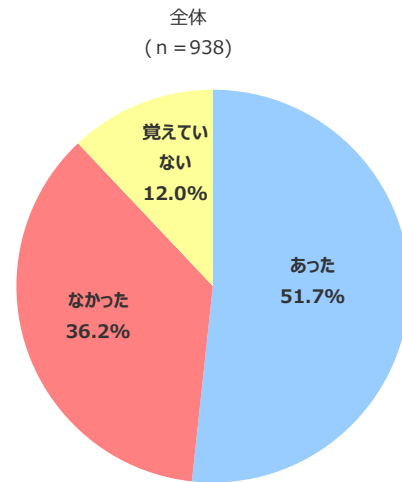
一方、「なかった」が36.2%、「覚えていない」が12.0%である（図2.1）。

また、小学校5-6年生当時に「こんな職業に就きたい」という夢が「あった」と回答した方に、職業リストの中からあてはまる職業を選んでもらった。

順位をみると、男性では1位「野球選手」、2位「運転手/車掌（車、バス、電車、新幹線等）」、3位「サッカー選手」となっている（表2.1）。

一方、女性では1位「教師（小学校、中学校、高等学校）」、2位「保育士・幼稚園教諭」、3位「ケーキ屋・パティシエール」となっている（表2.2）。

【図2.1】小学校5-6年生当時に将来就きたかった職業はあったか



【表2.1】小学校5-6年生当時に将来就きたかった職業：男性ランキング上位

順位	男性 (n = 145)	(%)
1	野球選手	11.7
2	運転手/車掌 (車、バス、電車、新幹線等)	9.7
3	サッカー選手	9.0
4	教師 (小学校、中学校、高等学校)	7.6

【表2.2】小学校5-6年生当時に将来就きたかった職業：女性ランキング上位

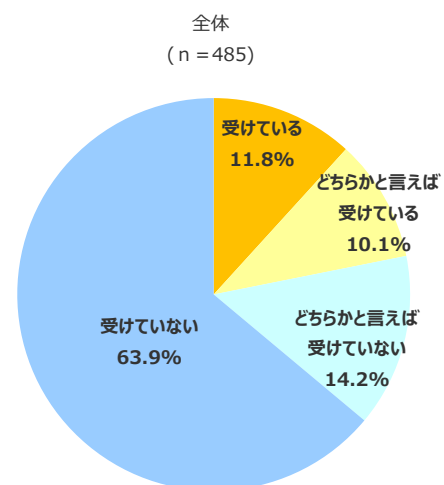
順位	女性 (n = 340)	(%)
1	教師 (小学校、中学校、高等学校)	7.9
2	保育士・幼稚園教諭	7.4
3	ケーキ屋・パティシエール	5.6
4	医者	5.3

さらに、小学校5-6年生当時に「こんな職業に就きたい」という夢が「あった」と回答した方に、就きたかった職業は親の職業の影響を受けているかを聞いた。

結果は「受けている」11.8%、「どちらかと言えば受けている」10.1%、「どちらかと言えば受けていない」14.2%、「受けていない」63.9%となった。

親の職業の影響を受けていない回答者が約8割に上り、親の職業の影響を受けている回答者が約2割にとどまった。小学校5-6年生の頃の職業への憧れは、ランキングをみても親の影響というよりも、生活体験やテレビなど媒体からの影響が大きいことがうかがえる（図2.2）。

【図2.2】小学校5-6年生当時に将来就きたかった職業は親の職業の影響を受けているか

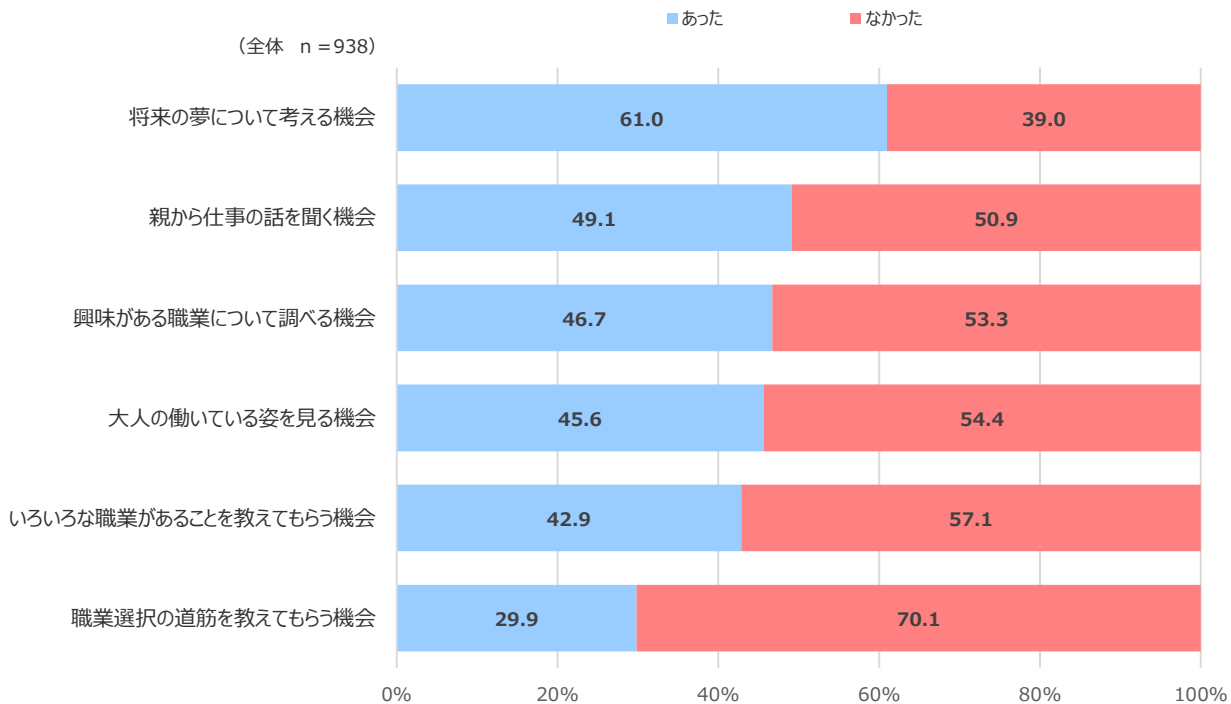


## 家庭であったキャリア教育の機会

社会人2~4年目の方に、小学校5-6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会について聞いた。

家庭でキャリア教育の機会が「あった」という回答で最も多かったのは、「将来の夢について考える機会」で61.0%、次いで「親から仕事の話聞く機会」49.1%、「興味がある職業について調べる機会」46.7%、「大人の働いている姿を見る機会」45.6%、「いろいろな職業があることを教えてもらう機会」42.9%、「職業選択の道筋を教えてもらう機会」29.9%となった（図3）。

【図3】 小学校5-6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会



## 学校で体験したキャリア教育のイベント

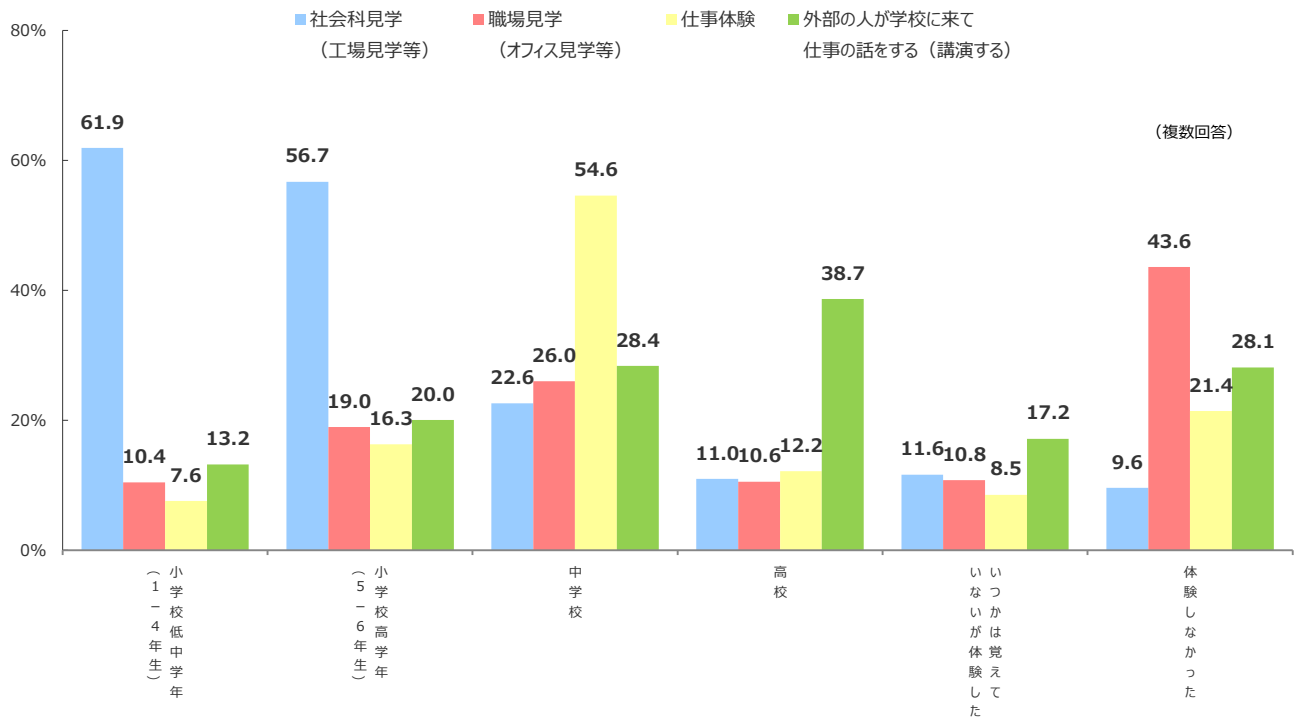
社会人2～4年目の方に、学校で体験したキャリア教育のイベントについてそれぞれ体験した時期を聞いた。

「社会科見学（工場見学等）」は小学校低学年が最も多く61.9%、次いで小学校高学年が56.7%となっている。

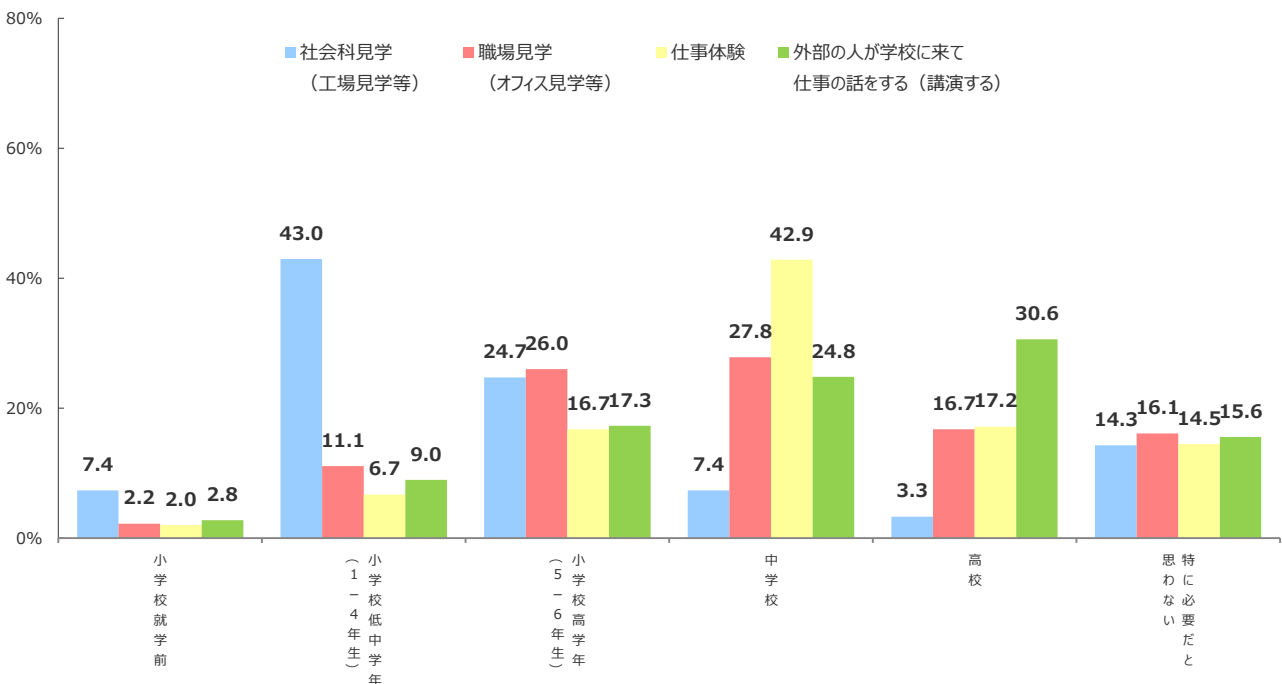
「仕事体験」は中学校が最も多く54.6%となった。「外部の人が学校に来て 仕事の話をする（講演する）」は高校が最も多く38.7%となっている。一方、「職場見学（オフィス見学等）」は、体験しなかったが最も多く43.6%、次いで中学校が26.0%となり、ほかのキャリア教育のイベントに比べ体験者が少ない結果となった（図4.1）。

また、それぞれのイベントについて、最初に体験するのはいつの時点が適切かを聞いたところ、概ね実際に体験した時期と同様の結果となった（図4.2）。

【図4.1】学校で体験するキャリア教育のイベント：実際に体験した時期



【図4.2】学校で体験するキャリア教育のイベント：最初に体験すべき時期



## 現在の考え 今の仕事の充実度

社会人2～4年目の方に、現在の仕事の充実度を聞いたところ、「充実している」20.7%、「どちらかと言えば充実している」47.0%、「どちらかと言えば充実していない」19.3%、「充実していない」13.0%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「充実している（どちらかと言えば含む／以下同）」が67.7%、「充実していない（どちらかと言えば含む／以下同）」が32.3%である（図5.1）。

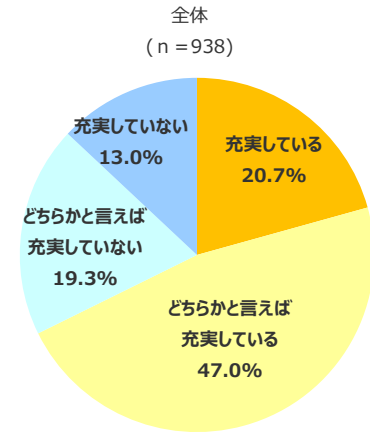
現在の仕事の充実度を小学校5-6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会との関係でみると、いずれも家庭内でキャリア教育の機会が「あった」と回答している方が「充実している」割合が高くなっている。

具体的にみていくと、親から仕事の話聞く機会が「あった」回答者は「充実している」が75.9%と、「なかった」回答者より16.1ポイント高い（図5.2）。

同様に、大人の働いている姿を見る機会では11.6ポイント（図5.3）、いろいろな職業があることを教えてもらう機会では12.6ポイント（図5.4）、職業選択の道筋を教えてもらう機会では12.5ポイント（図5.5）、将来の夢について考える機会では13.8ポイント（図5.6）、興味がある職業について調べる機会では11.8ポイント（図5.7）と、いずれも家庭内でキャリア教育の機会が「なかった」回答者より10ポイント以上高くなっていた。

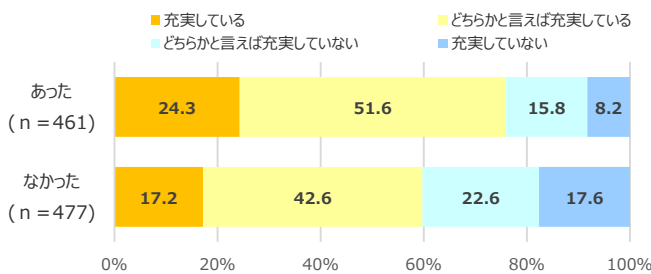
家庭内で親が仕事の話をするこや子供に職業について考えさせることなどのキャリア教育の機会が、将来仕事に就いた時の充実度に影響を与えているのかもしれない。

【図5.1】今の仕事の充実度



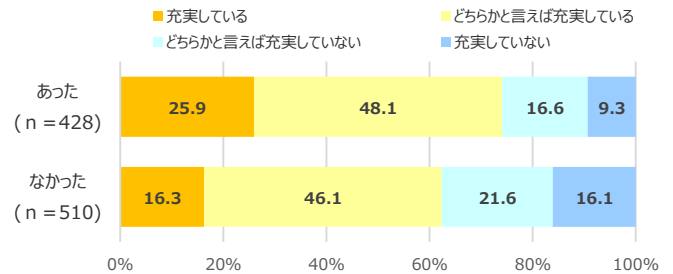
【図5.2】今の仕事の充実度

：親から仕事の話聞く機会の有無別



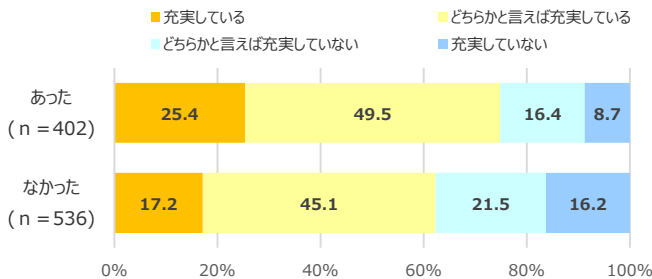
【図5.3】今の仕事の充実度

：大人の働いている姿を見る機会の有無別



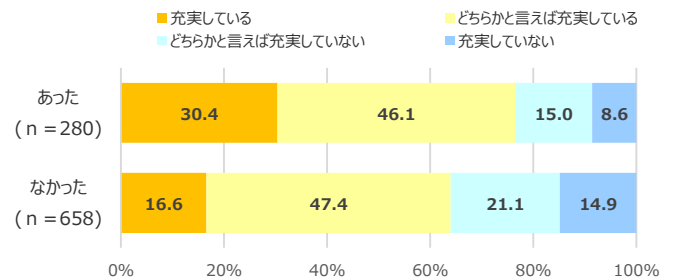
【図5.4】今の仕事の充実度

：いろいろな職業があることを教えてもらう機会の有無別



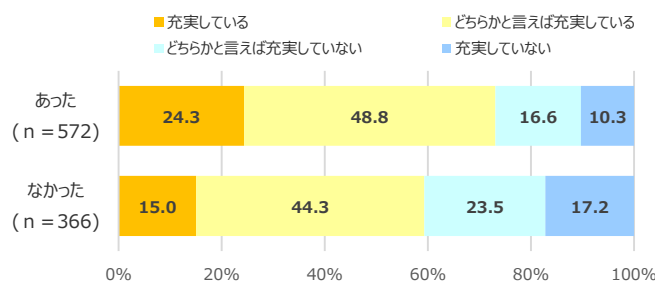
【図5.5】今の仕事の充実度

：職業選択の道筋を教えてもらう機会の有無別



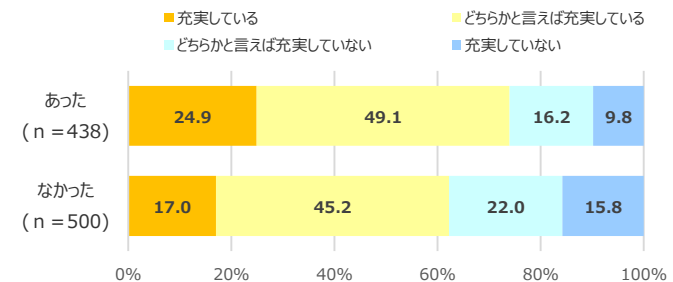
【図5.6】今の仕事の充実度

：将来の夢について考える機会の有無別



【図5.7】今の仕事の充実度

：興味がある職業について調べる機会の有無別





## 就職活動当時 志望業界と志望理由

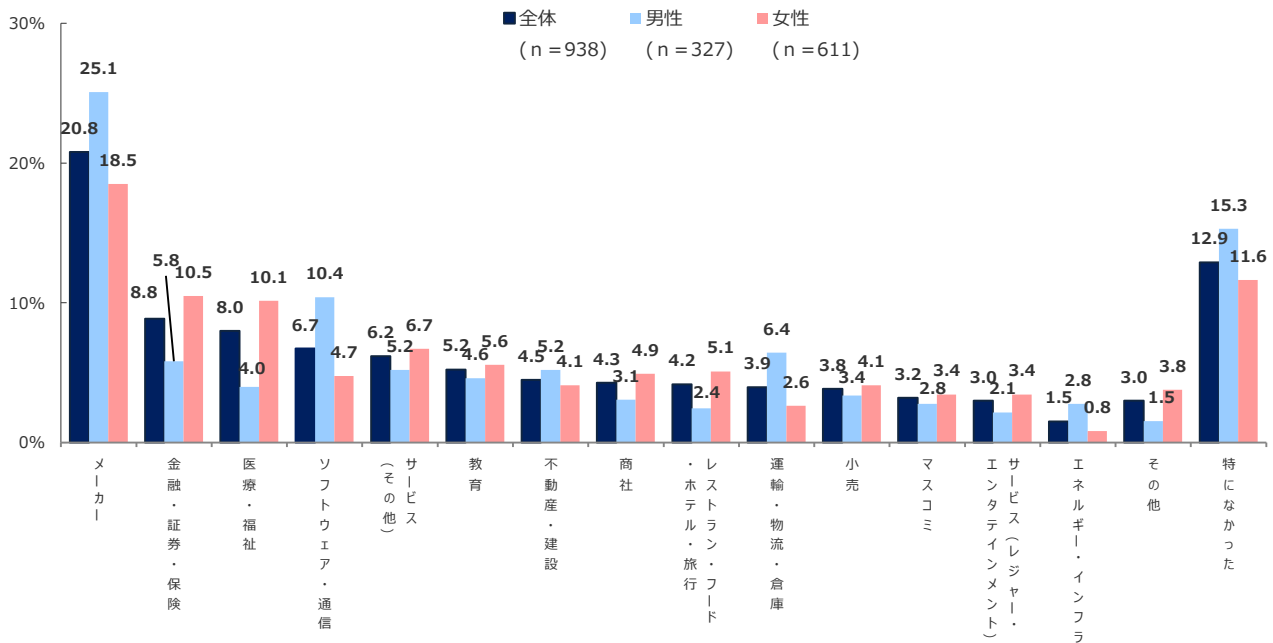
社会人2～4年目の方に、就職活動当時最も志望していた業界とその志望業界を選んだ理由を聞いた。

最も志望していた業界は、「特になかった」12.9%を除くと、回答が多い順に「メーカー」20.8%、「金融・証券・保険」8.8%、「医療・福祉」8.0%となった。

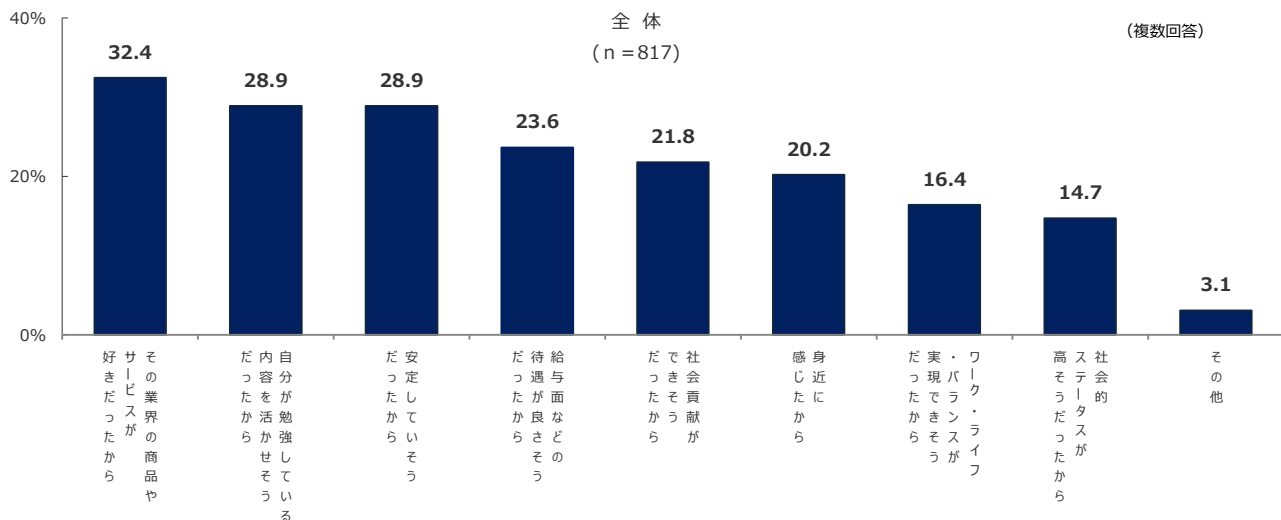
男性では「特になかった（15.3%）」を除くと、回答が多い順に「メーカー（25.1%）」「ソフトウェア・通信（10.4%）」「運輸・物流・倉庫（6.4%）」となっている。女性では「特になかった（11.6%）」を除くと、回答が多い順に「メーカー（18.5%）」「金融・証券・保険（10.5%）」「医療・福祉（10.1%）」となり、男女ともに、「メーカー」を志望していた割合が高くなっている（図6.1）。

志望業界を選んだ理由は、「その業界の商品やサービスが好きだったから」が最も多く32.4%、次いで「自分が勉強している内容を活かそうだったから」と「安定していそうだったから」がともに28.9%、「給与面などの待遇が良さそうだったから」23.6%、「社会貢献ができそうだったから」21.8%となっている（図6.2）。

【図6.1】就職活動当時の志望業界：回答者性別



【図6.2】志望業界を選んだ理由



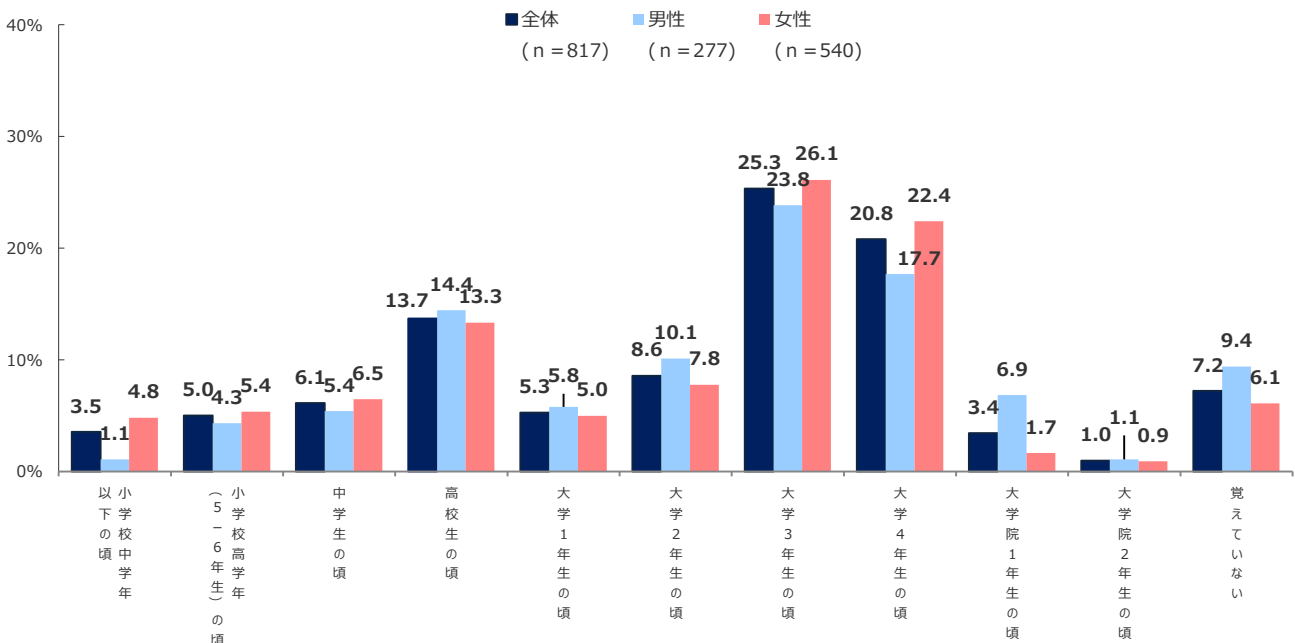
# 就職活動当時 志望業界を意識した時期

社会人2~4年目の方に、就職活動当時の志望業界を初めて意識したのはいつ頃かを聞いた。

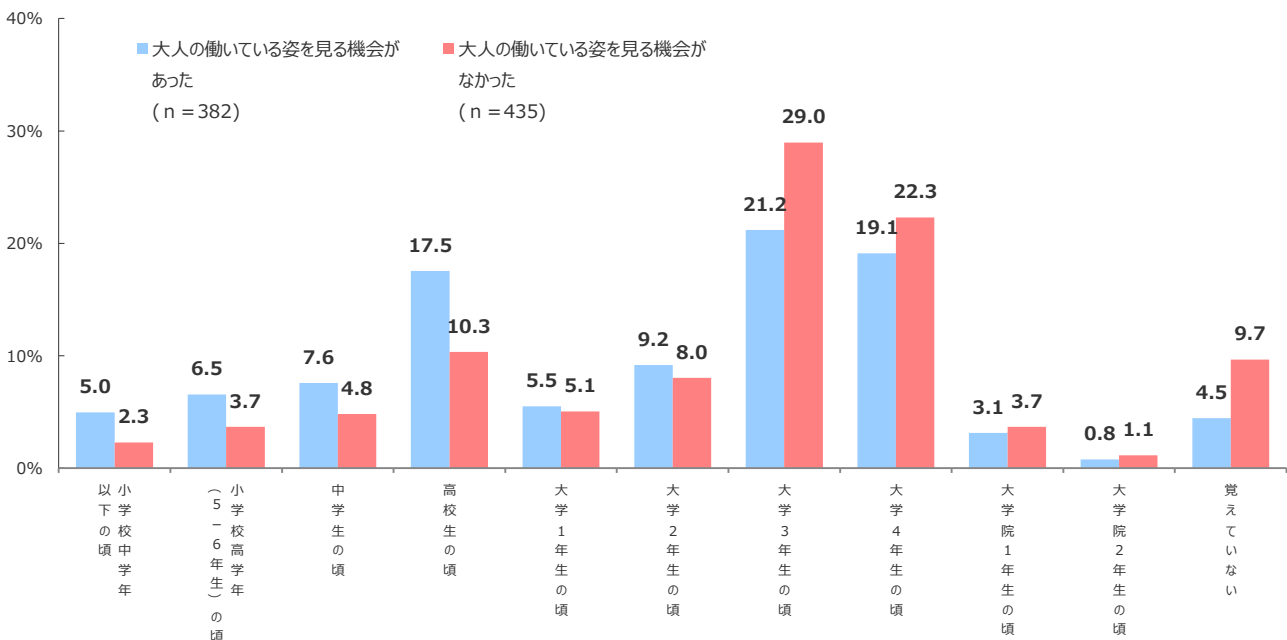
回答が最も多かったのは「大学3年生の頃」で25.3%、次いで「大学4年生の頃」20.8%となり、就職活動を見据えた時期に、半数近くが志望業界を初めて意識したことになる。一方、「高校生の頃」に意識した回答者も13.7%おり、「高校生の頃」より前の時期も加えると、28.3%と約3割が「高校生の頃」までに志望業界を意識し始めていた結果となった。また、「中学生の頃」まではそれぞれの時期で、女性の方が意識した割合が若干高くなっている（図7.1）。

これを、小学校5-6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会「大人の働いている姿を見る機会」との関係でみると、大人の働いている姿を見る機会が「あった」回答者は、「なかった」回答者に比べて、就職活動始める前の「大学2年生の頃」までに志望業界を意識した割合が、それぞれの時期で高くなっている。また、大人の働いている姿を見る機会が「あった」回答者の「小学校中学年以下の頃」から「大学2年生の頃」までの回答を合わせると、計51.3%と過半数の回答者が就職活動前から志望業界を意識し始めていた。大人の働いている姿を見る機会が「なかった」回答者の計34.2%より17.1ポイント高くなっており、大人の働く姿を見る機会が、自分の将来の方向性に少なからず影響を与えていることがうかがえる（図7.2）。

【図7.1】就職活動当時の志望業界を意識した時期



【図7.2】就職活動当時の志望業界を意識した時期：小学校5-6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会・大人の働いている姿を見る機会の有無別



## 就職活動当時 志望職種と志望理由

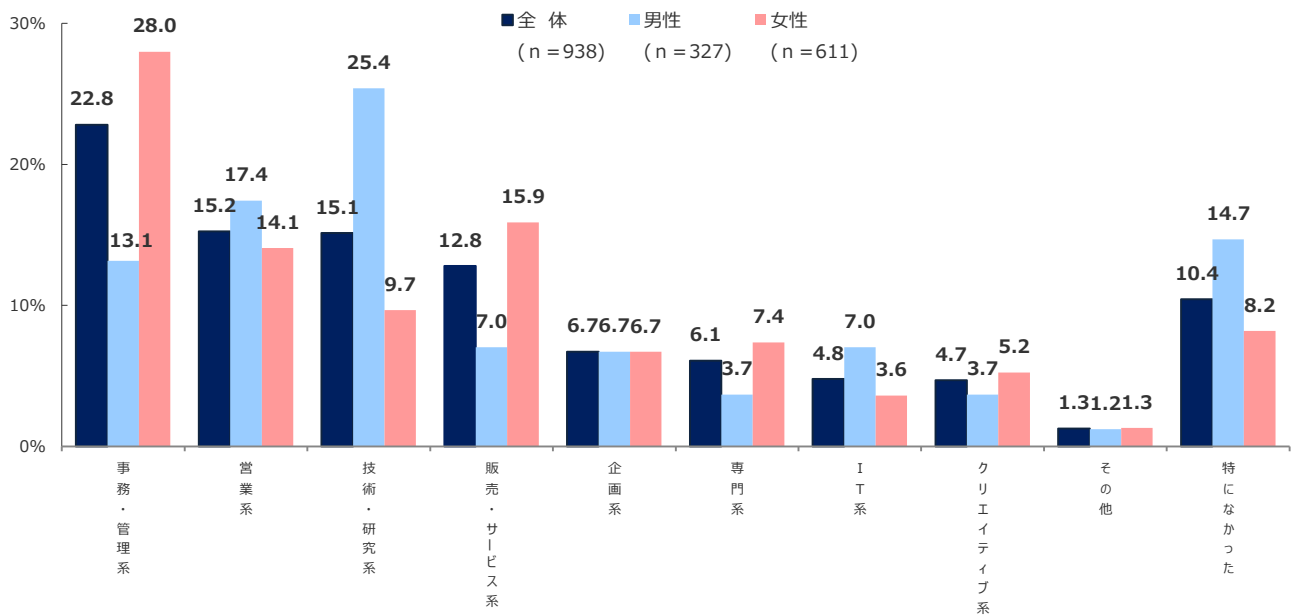
社会人2～4年目の方に、就職活動当時最も志望していた職種とその志望職種を選んだ理由を聞いた。

最も志望していた職種は、「事務・管理系」が最も多く22.8%、次いで「営業系」15.2%、「技術・研究系」15.1%、「販売・サービス系」12.8%の順となった。

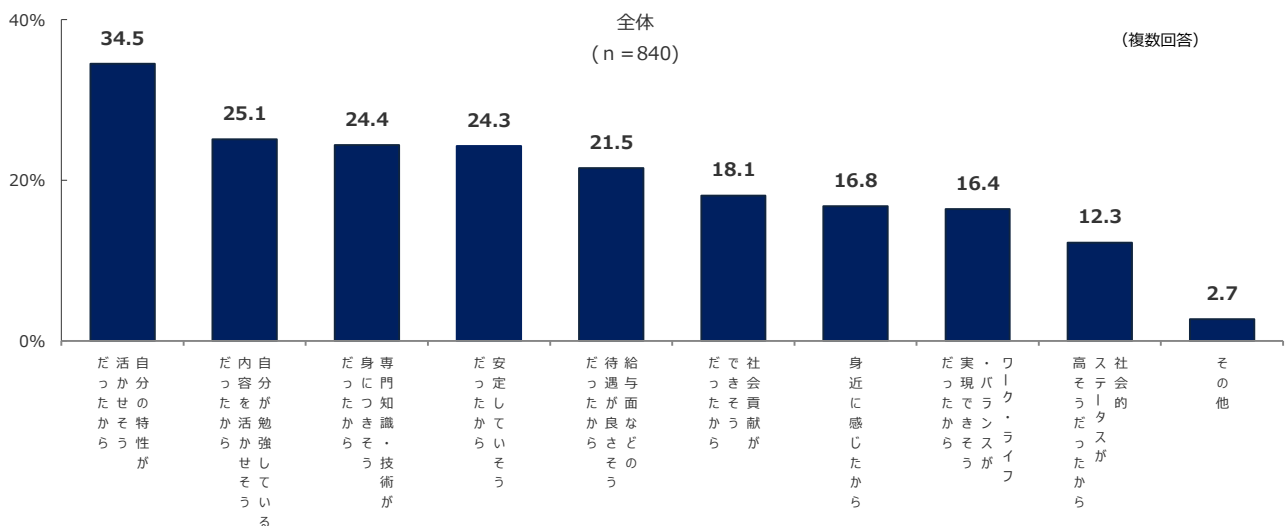
男女別にみると、男性は「技術・研究系（25.4%）」「営業系（17.4%）」「事務系（13.1%）」の順に、女性は「事務系（28.0%）」「販売・サービス系（15.9%）」「営業系（14.1%）」の順となっている（図8.1）。

志望職種を選んだ理由は、「自分の特性が活かせそうだったから」が最も多く34.5%、次いで「自分が勉強している内容を活かせそうだったから」25.1%、「専門知識・技術が身につけそうだったから」24.4%、「安定していそうだったから」24.3%、「給与面などの待遇が良さそうだったから」21.5%となっている（図8.2）。

【図8.1】就職活動当時の志望職種：回答者性別



【図8.2】志望職種を選んだ理由



# 子供の頃になりたかった職業・専攻・親の職業と志望職業の関連

社会人2~4年目の方に、就職活動当時に志望していた職業について、「小学校5-6年生当時になりたかった職業と関連しているか」「専攻していた学部や学科と関連しているか」「親の職業の影響を受けているか」の3つを聞いた。

小学校5-6年生当時になりたかった職業との関係を見ると、「関連している」15.1%、「どちらかと言えば関連している」12.6%となり、合わせて27.7%と3割弱の回答者が、就職活動当時に志望していた職業は、小学校5-6年生当時になりたかった職業と「関連している」と回答している。

一方、「関連していない（「どちらかと言えば」含む）」は7割強に達しており、子供の頃になりたかった職業と現実とは異なるようだ（図9.1）。

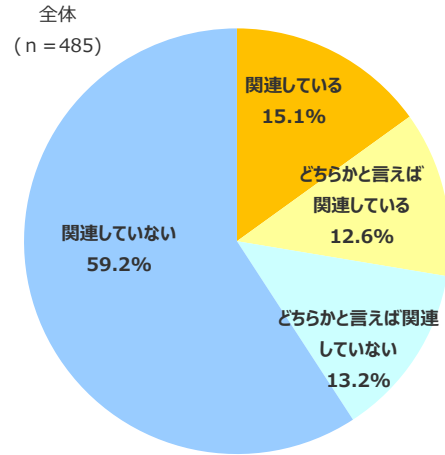
次に専攻していた学部や学科との関係を見ると、「関連している」20.6%、「どちらかと言えば関連している」22.3%となり、合わせて42.9%と4割強の回答者が、就職活動当時に志望していた職業は、専攻していた学部や学科と「関連している」と回答している。

一方、「関連していない（「どちらかと言えば」含む）」は6割弱に達しており、学校で学んでいたことと就職活動の志望職業には乖離があるようだ（図9.2）。

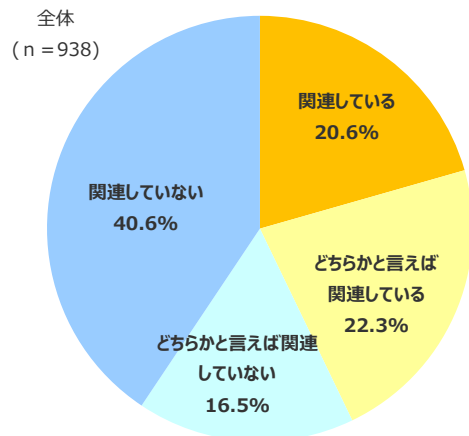
さらに親の職業の影響を受けているかとの関係を見ると、「受けている」8.4%、「どちらかと言えば受けている」13.2%となり、合わせて21.6%と2割強の回答者が、就職活動当時に志望していた職業は、親の職業の影響を「受けている」と回答している。

一方、「受けていない（「どちらかと言えば」含む）」は8割弱に達している（図9.3）。

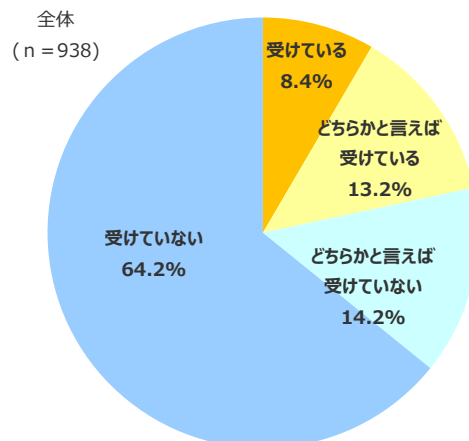
【図9.1】 就職活動当時の志望職業は、小学校5-6年生当時になりたかった職業と関連しているか



【図9.2】 就職活動当時の志望職業は、専攻していた学部・学科と関連しているか



【図9.3】 就職活動当時の志望職業は、親の職業の影響を受けているか

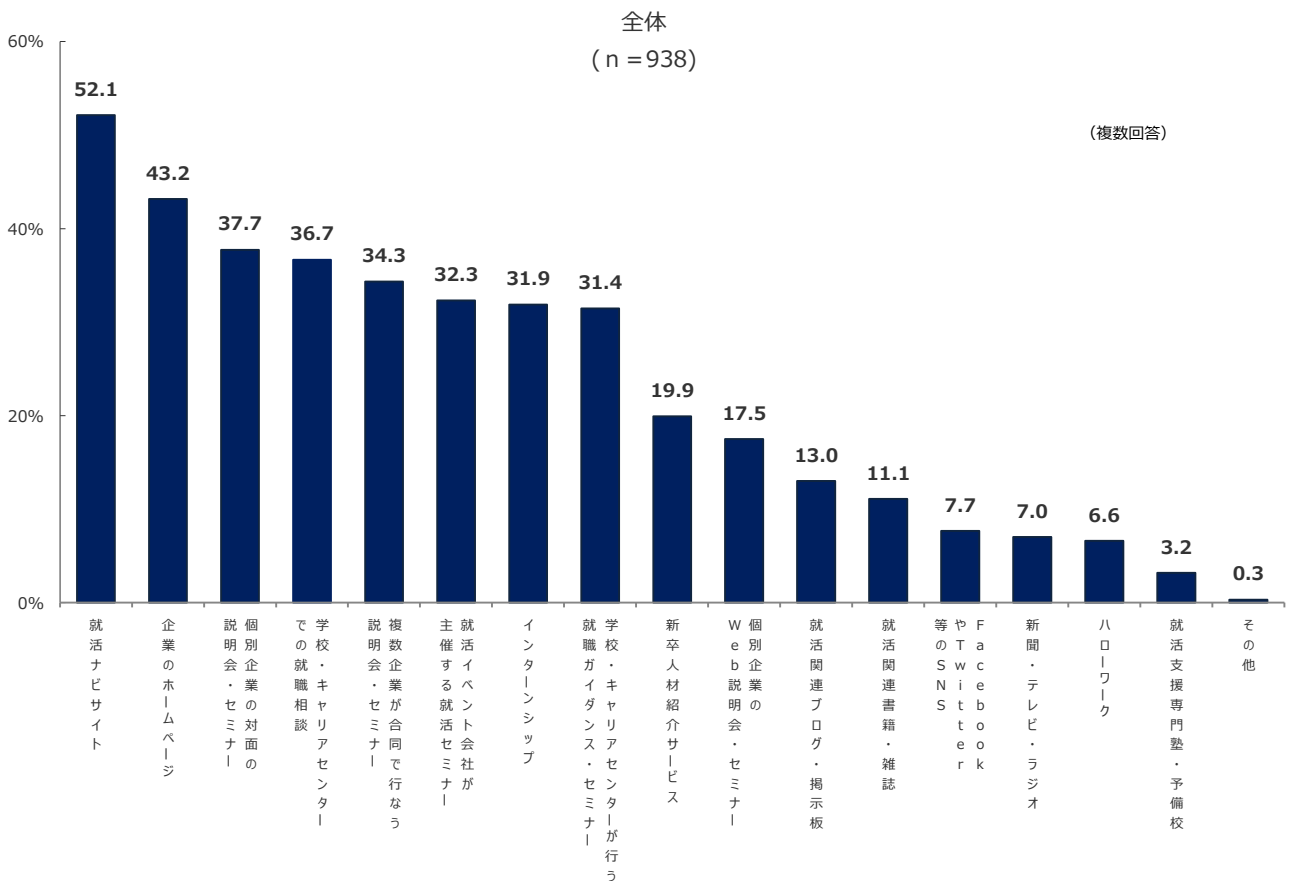


## 就職活動当時 利用サービス・ツール

社会人2～4年目の方に、就職活動当時どのようなサービスやツールを利用していたかを聞いた。

「就活ナビサイト」が最も多く52.1%、次いで「企業のホームページ」43.2%、「個別企業の対面の説明会・セミナー」37.7%、「学校・キャリアセンターでの就職相談」36.7%、「複数企業が合同で行う説明会・セミナー」34.3%、「就活イベント会社が主催する就活セミナー」32.3%、「インターンシップ」31.9%、「学校・キャリアセンターが行う就職ガイダンス・セミナー」31.4%の順となっている（図10）。

【図10】 就職活動当時利用していたサービス・ツール



## 就職活動での自分の行動や状況

社会人2～4年目の方に、就職活動での自分の行動や状況を思い返してもらい、以下の7つの項目について就職活動当時、AとBのどちらの考えに近かったのかを4尺度で聞いた（文章中「どちらかと言えば」をAもしくはBに含めて表記している）。

「積極的に就職活動をしていた」のか「積極的に就職活動をしていなかった」のかでは、「積極的に就職活動をしていた」が計58.2%。

「就職活動は順調に進んだ」のか「就職活動は苦戦した」のかでは、「就職活動は順調に進んだ」が計56.7%。

「就職活動に満足していた」のか「就職活動に満足していなかった」のかでは、「就職活動に満足していた」が計53.5%。

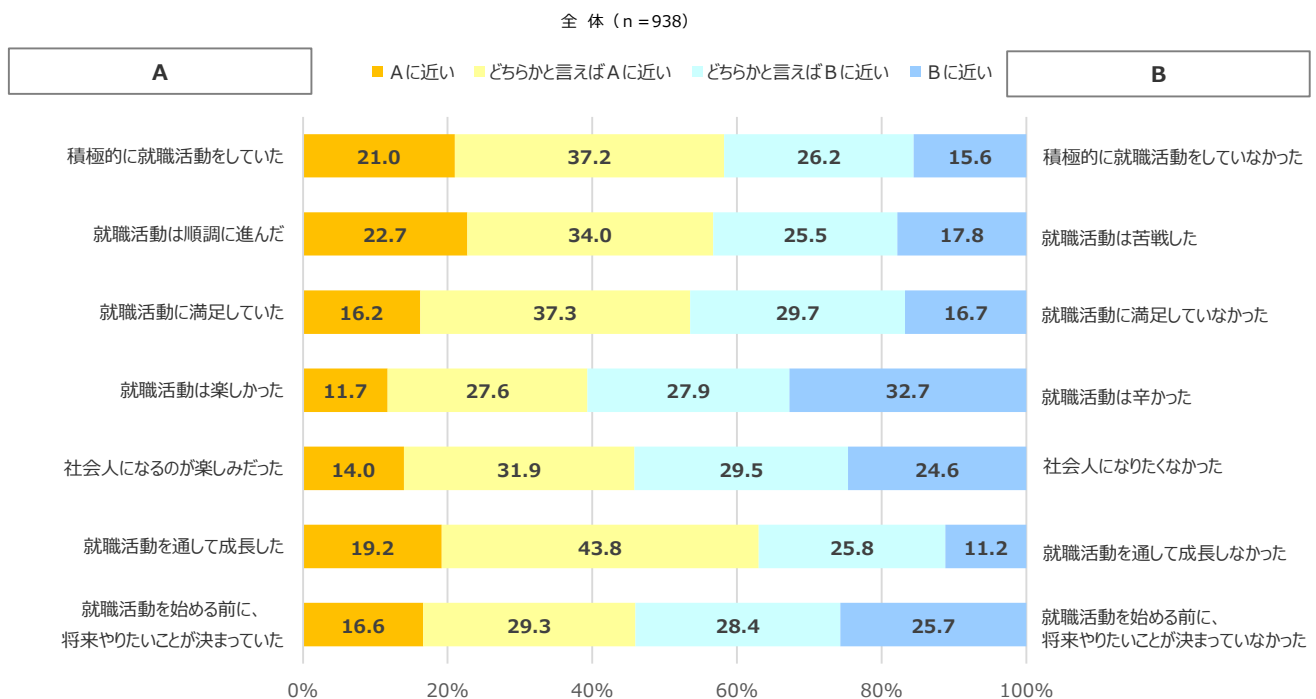
「就職活動は楽しかった」のか「就職活動は辛かった」のかでは、「就職活動は辛かった」が計60.6%。

「社会人になるのが楽しみだった」のか「社会人になりたくなかった」では、「社会人になりたくなかった」が計54.1%。

「就職活動を通して成長した」のか「就職活動を通して成長しなかった」のかでは、「就職活動を通して成長した」が計63.0%。

「就職活動を始める前に、将来やりたいことが決まっていた」のか「就職活動を始める前に、将来やりたいことが決まっていなかった」のかでは、「就職活動を始める前に、将来やりたいことが決まっていなかった」が計54.1%であった（図11）。

【図11】就職活動での自分の行動や状況

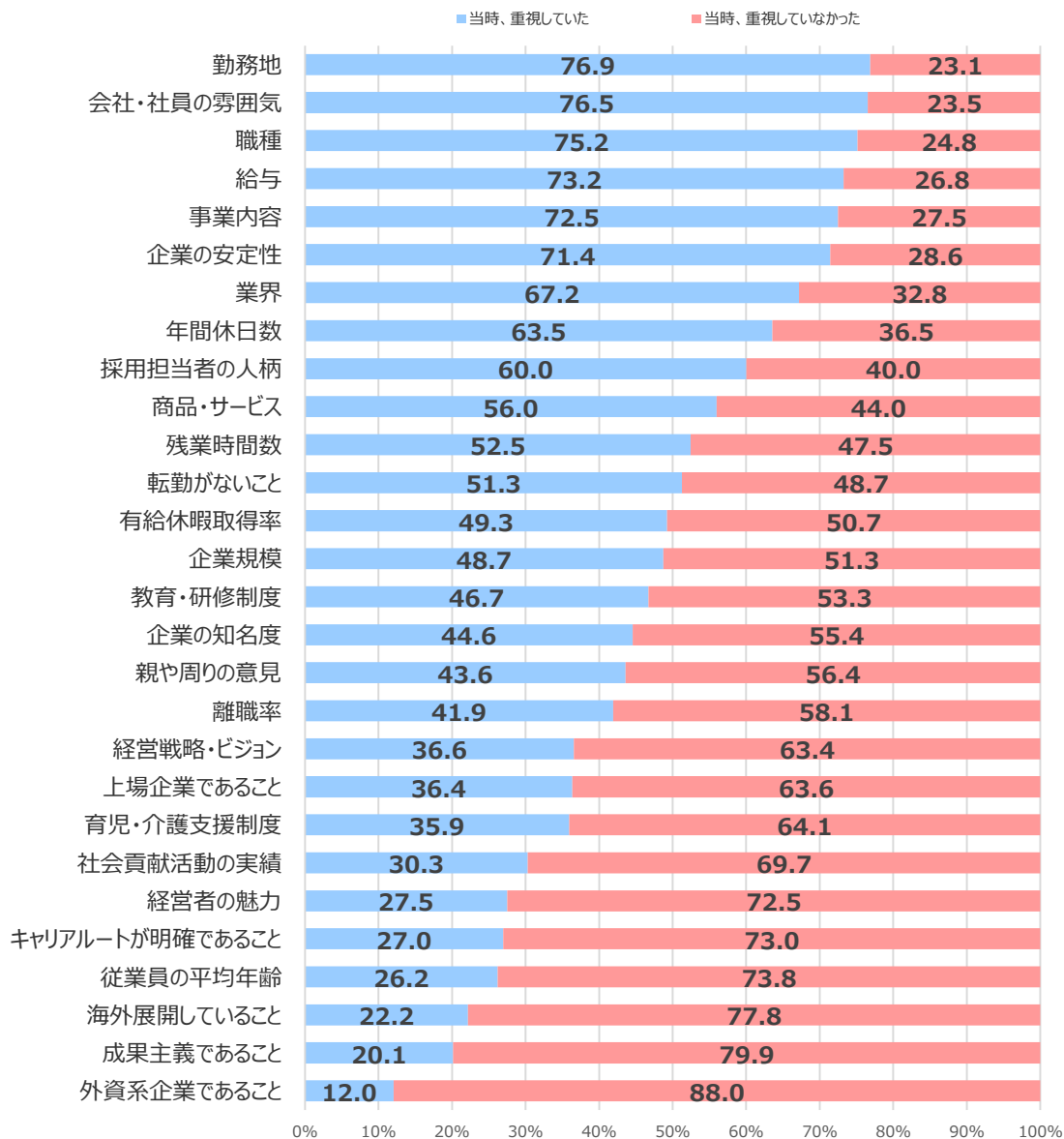


## 企業選定で重視していた／いなかったもの

社会人2～4年目の方に、就職活動中に企業を選定する際に、「当時、重視していたもの」「当時、重視していなかったもの」を聞いた。重視度が高いのは、順に「勤務地」「会社・社員の雰囲気」「職種」「給与」「事業内容」「企業の安定性」で、それぞれ7割を超えている。続いて「業界」「年間休日数」「採用担当者の人柄」「商品・サービス」「残業時間数」「転勤がないこと」が過半数を超えた。

反対に、重視度が低いのは、「外資系企業であること」「成果主義であること」「海外展開していること」「従業員の平均年齢」「キャリアルートが明確であること」「経営者の魅力」で、重視度は3割に満たなかった（図12）。

【図12】就職活動時代に企業選定で重視していた／いなかったこと



# 今思えば、就職活動当時に 「重視しておけばよかった」もの

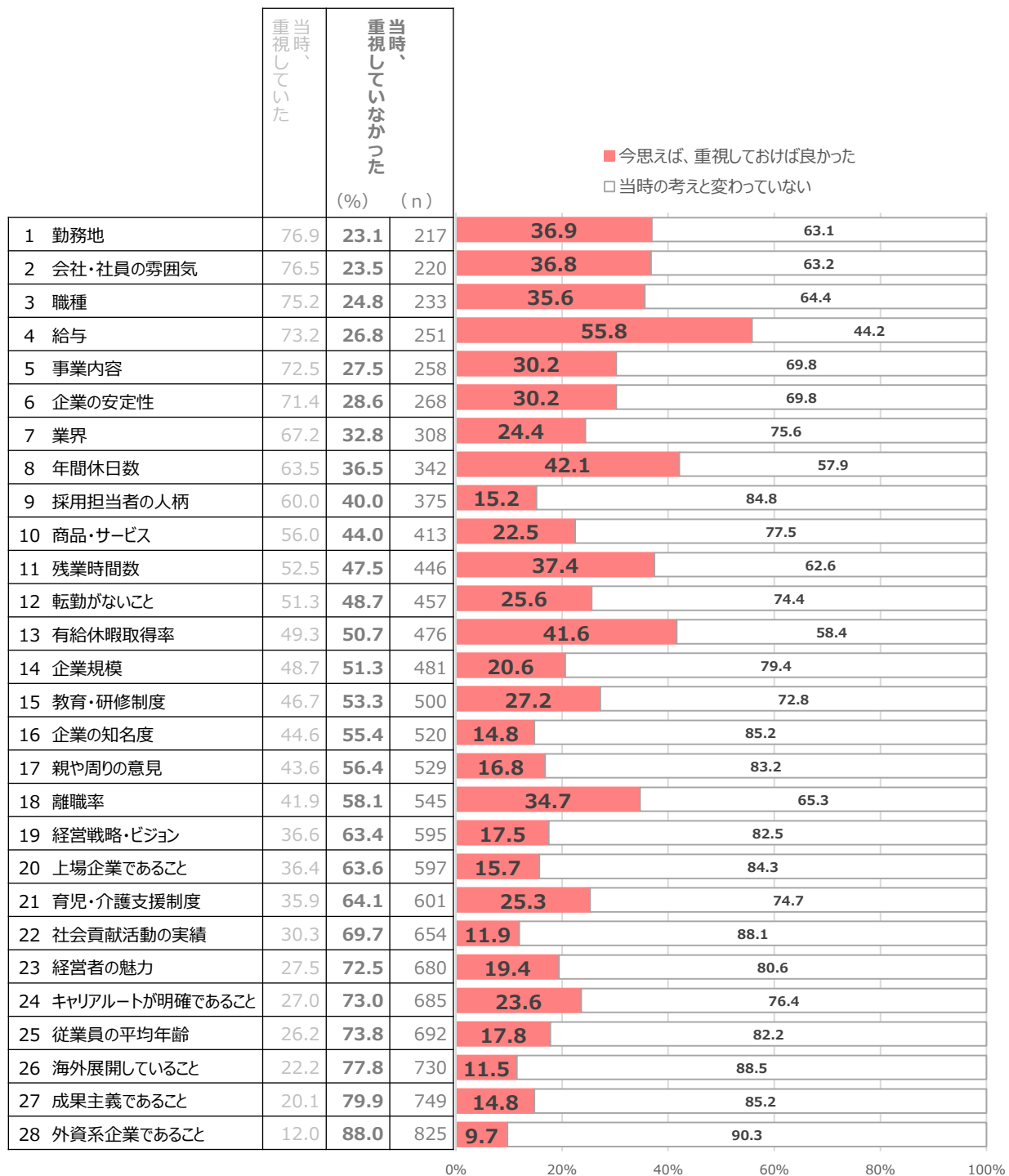
13

社会人2～4年目の方に、就職活動中に企業を選定する際に、「当時、重視していたもの」「当時、重視していなかったもの」を前問で聞いたが、さらに「当時、重視していなかったもの」について、「今思えば、重視しておけば良かった」のか「当時の考えと変わっていない」のかを聞いた。

「今思えば、重視しておけば良かった」ものを上位からみていくと、「給与」が最も多く55.8%と過半数を超える。次いで「年間休日数」42.1%、「有給休暇取得率」41.6%、「残業時間数」37.4%、「勤務地」36.9%、「会社・社員の雰囲気」36.8%、「職種」35.6%、「離職率」34.7%だった（図13）。

仕事の不満足に関わる衛生要因が上位となっており、入社してからあらためて不満に感じた事柄なのかもしれない。

【図13】 就活当時は重視していなかったが、「今思えば、重視しておけばよかった」もの





## 就職活動当時の自分へのアドバイス

社会人2～4年目の方に、就職活動当時の自分に働くことについてアドバイスするとしたら、以下の8つの項目について、AとBのどちらの考えに近いのかを4尺度で聞いた（文章中「どちらかと言えば」をAもしくはBに含めて表記している）。

「職業選択は自分自身で自由に決めた方が良い」のか「職業選択は親の意見も聞いた方が良い」のかでは、「職業選択は自分自身で自由に決めた方が良い」が計77.1%。

「給与が低くても、やりたい仕事を選んだ方が良い」のか「やりたくない仕事でも、給与の高い仕事を選んだ方が良い」のかでは、「給与が低くても、やりたい仕事を選んだ方が良い」が計56.6%。

「社会的地位の高い仕事に就いた方が良い」のか「社会的地位は気にしなくて良い」のかでは、「社会的地位は気にしなくて良い」が計50.5%。

「責任を求められる仕事を探した方が良い」のか「プレッシャーのない気楽な仕事を探した方が良い」のかでは、「プレッシャーのない気楽な仕事を探した方が良い」が計52.9%。

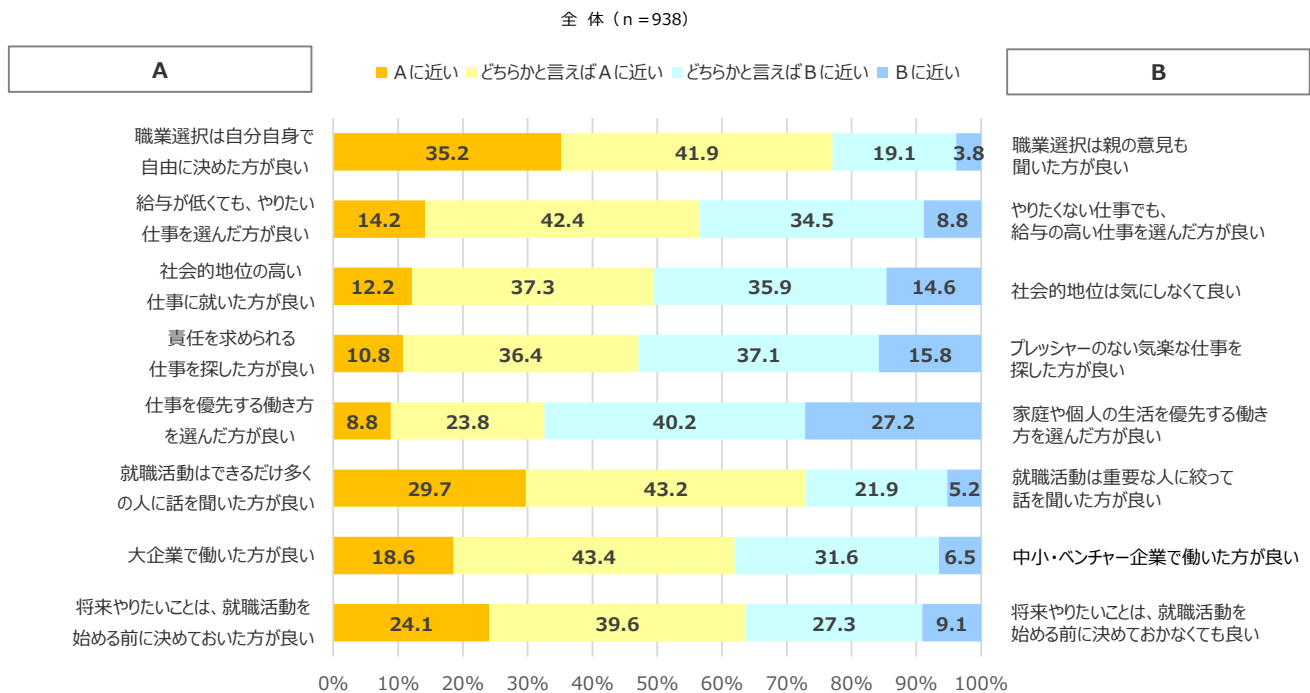
「仕事を優先する働き方を選んだ方が良い」のか「家庭や個人の生活を優先する働き方を選んだ方が良い」のかでは、「家庭や個人の生活を優先する働き方を選んだ方が良い」が計67.4%。

「就職活動はできるだけ多くの人に話を聞いた方が良い」のか「就職活動は重要な人に絞って話を聞いた方が良い」のかでは、「就職活動はできるだけ多くの人に話を聞いた方が良い」が計72.9%。

「大企業で働いた方が良い」のか「中小・ベンチャー企業で働いた方が良い」のかでは、「大企業で働いた方が良い」が計62.0%。

「将来やりたいことは、就職活動を始める前に決めておいた方が良い」のか「将来やりたいことは、就職活動を始める前に決めておかなくても良い」のかでは、「将来やりたいことは、就職活動を始める前に決めておいた方が良い」が計63.7%であった（図14）。

【図14】就職活動当時の自分へのアドバイス



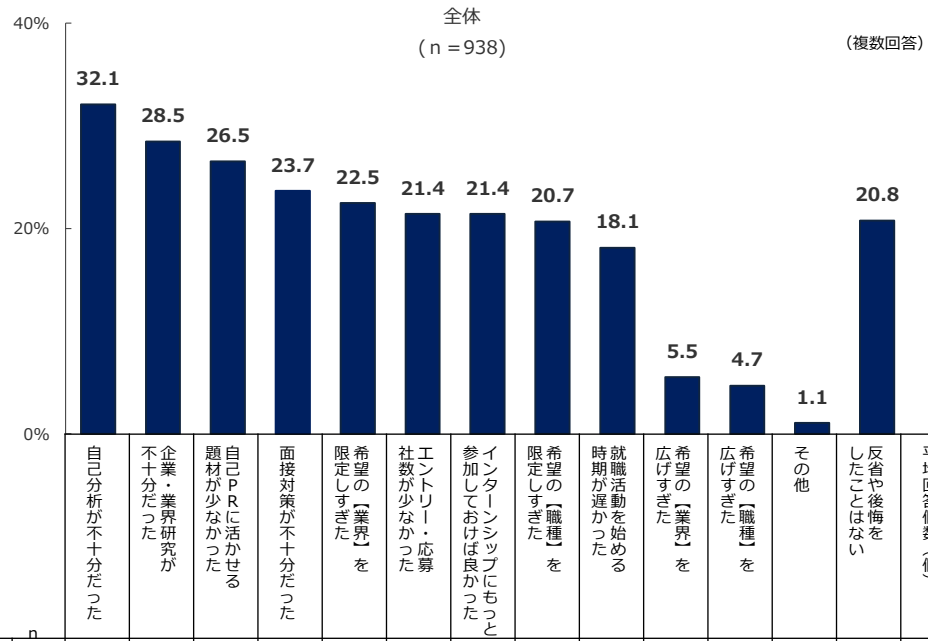
# 就職活動当時 就職活動の反省や後悔

社会人2~4年目の方に、当時の就職活動を振り返り、反省や後悔があるかを聞いた。反省や後悔していることは「自己分析が不十分だった」が最も多く32.1%、次いで「企業・業界研究が不十分だった」28.5%、「自己PRに活かせる題材が少なかった」26.5%、「面接対策が不十分だった」23.7%、「希望の【業界】を限定しすぎた」22.5%、「エントリー・応募社数が少なかった」21.4%、「インターンシップにもっと参加しておけば良かった」21.4%の順となっている。一方、「反省や後悔をしたことはない」が20.8%と約2割となった。

これを就職活動当時の自分の行動や状況との関係でみると、就職活動にネガティブな姿勢や考え、苦戦した回答者は、平均回答個数からみて反省や後悔することが多くなっている。

具体的に見ると、就職活動に苦戦した回答者は、「自己分析が不十分だった」47.0%、「自己PRに活かせる題材が少なかった」37.2%、「面接対策が不十分だった」38.4%と、就職活動が順調に進んだ回答者と比べて、それぞれ26.3、18.8、26.0ポイントも大幅に高くなっている。また、就職活動に満足していた/満足していなかった回答者も同様の傾向である(図15)。自分を深掘できず、やりたいことと志望動機などを結び付けて表現・アピールできなかったことがうかがえる結果となった。

【図15】就職活動当時の反省や後悔



		全体	938	32.1	28.5	26.5	23.7	22.5	21.4	21.4	20.7	18.1	5.5	4.7	1.1	20.8	2.3
就職活動当時の状況	就職活動への意欲	積極的に就職活動をしていた	546	28.0	24.2	22.9	19.8	21.8	15.4	21.4	19.8	10.6	6.6	5.5	1.1	24.0	2.0
		積極的に就職活動をしていなかった	392	37.8	34.4	31.6	29.1	23.5	29.8	21.4	21.9	28.6	4.1	3.6	1.0	16.3	2.7
	進捗	就職活動は順調に進んだ	532	20.7	21.1	18.4	12.4	20.7	17.3	19.7	18.0	11.8	4.3	3.8	0.8	28.2	1.7
		就職活動は苦戦した	406	47.0	38.2	37.2	38.4	24.9	26.8	23.6	24.1	26.4	7.1	5.9	1.5	11.1	3.0
	満足感	就職活動に満足していた	502	21.7	19.9	16.9	16.7	18.9	14.5	18.9	17.7	11.2	5.6	4.6	0.4	29.1	1.7
		就職活動に満足していなかった	436	44.0	38.3	37.6	31.7	26.6	29.4	24.3	24.1	26.1	5.5	4.8	1.8	11.2	2.9
	楽しさ	就職活動は楽しかった	369	21.7	20.3	15.7	11.7	18.2	15.7	19.2	17.1	12.5	4.9	4.1	0.8	29.5	1.6
		就職活動は辛かった	569	38.8	33.7	33.6	31.5	25.3	25.1	22.8	23.0	21.8	6.0	5.1	1.2	15.1	2.7
	社会人生活への期待	社会人になるのが楽しかった	430	25.8	23.3	22.6	20.5	20.7	17.7	20.5	19.3	15.8	5.6	5.3	0.9	23.5	2.0
		社会人になりたくなかった	508	37.4	32.9	29.9	26.4	24.0	24.6	22.2	21.9	20.1	5.5	4.1	1.2	18.5	2.5
	成長	就職活動を通して成長した	591	29.6	28.3	24.0	20.3	23.5	20.0	22.3	21.2	14.2	5.9	5.1	0.8	22.2	2.2
		就職活動を通して成長しなかった	347	36.3	28.8	30.8	29.4	20.7	23.9	19.9	19.9	24.8	4.9	4.0	1.4	18.4	2.4
	将来やりたいことの決定時期	就職活動を始める前に、将来やりたいことが決まっていた	431	23.0	21.3	20.4	19.5	23.2	17.2	18.8	20.9	11.6	5.3	4.9	0.5	25.3	1.9
		就職活動を始める前に、将来やりたいことが決まっていなかった	507	39.8	34.5	31.8	27.2	21.9	25.0	23.7	20.5	23.7	5.7	4.5	1.6	17.0	2.6

# 就職活動当時 相談相手

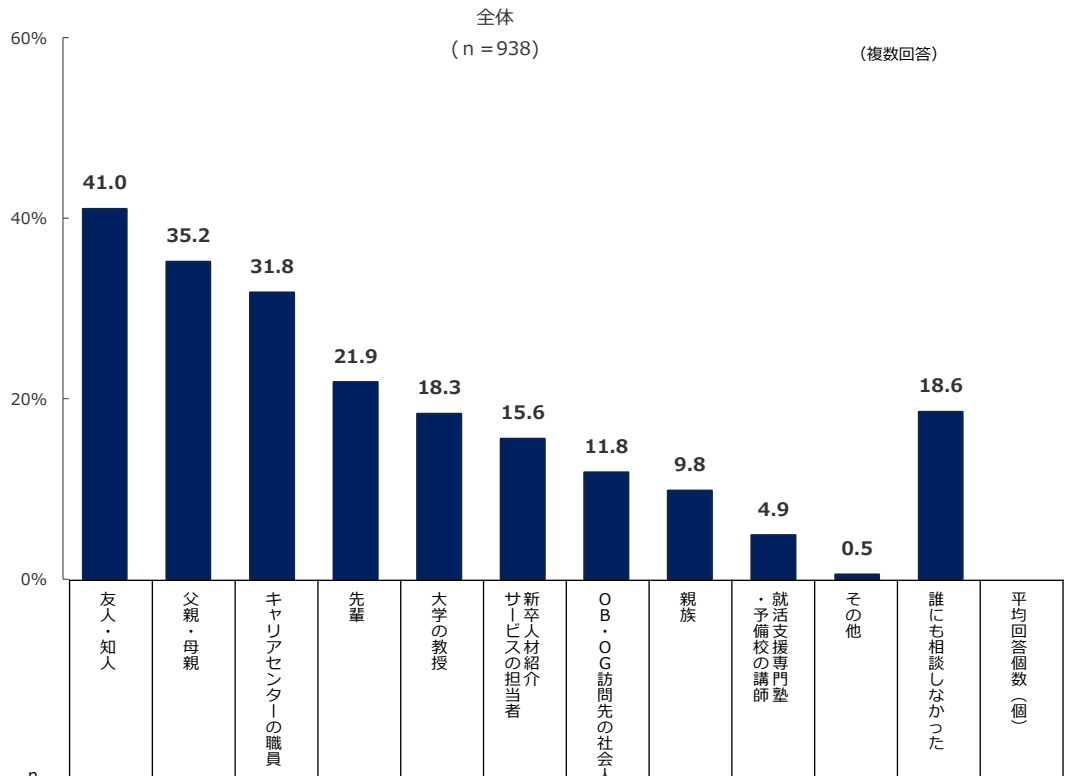
社会人2～4年目の方に、就職活動当時に就職活動に関する相談を誰にしていたかを聞いた。全体では「友人・知人」が最も多く41.0%、次いで「父親・母親」35.2%、「キャリアセンターの職員」31.8%、「先輩」21.9%の順となっている。

これを小学校5-6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会との関係でみると、いずれも家庭内でキャリア教育の機会が「あった」回答者の方が、「なかった」回答者よりも平均回答個数が多く、それぞれの相手に対し相談している割合が高くなっている。裏を返せば、「誰にも相談しなかった」割合は低く、より多くの人に相談をしている結果となった。

なかでも、親から仕事の話聞く機会が「あった」回答者は、「父親・母親」へ相談した割合が46.0%と「なかった」回答者よりも21.3ポイント高い。また、全体での相談相手1位の「友人・知人」を抜いて、「父親・母親」が最も多くなった(図16)。

親が子供に仕事の話をする事で、仕事に関して親への信頼感が高まり、子供が就職相談しやすくなることogaうかがえる。

【図16】就職活動当時の相談相手



		n	全体	41.0	35.2	31.8	21.9	18.3	15.6	11.8	9.8	4.9	0.5	18.6	1.9
小学校5・6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会	親から仕事の話聞く機会	あった	461	43.6	46.0	36.2	25.8	23.4	18.9	15.0	13.0	6.5	0.2	11.1	2.3
		なかった	477	38.6	24.7	27.5	18.0	13.4	12.4	8.8	6.7	3.4	0.8	25.8	1.5
	大人の働いている姿を見る機会	あった	428	44.9	40.9	38.3	27.8	22.9	17.8	15.0	14.0	7.2	0.5	10.7	2.3
		なかった	510	37.8	30.4	26.3	16.9	14.5	13.7	9.2	6.3	2.9	0.6	25.1	1.6
	いろいろな職業があることを教えてもらう機会	あった	402	44.8	43.0	37.3	24.1	22.4	16.9	16.4	13.9	7.2	0.2	10.7	2.3
		なかった	536	38.2	29.3	27.6	20.1	15.3	14.6	8.4	6.7	3.2	0.7	24.4	1.6
	職業選択の道筋を教える機会	あった	280	41.8	40.4	36.1	26.1	25.7	18.9	18.9	17.5	7.5	0.4	10.4	2.3
		なかった	658	40.7	33.0	29.9	20.1	15.2	14.1	8.8	6.5	3.8	0.6	22.0	1.7
	将来の夢について考える機会	あった	572	46.5	42.0	35.5	24.5	22.9	17.5	14.5	12.6	6.1	0.2	12.1	2.2
		なかった	366	32.5	24.6	26.0	17.8	11.2	12.6	7.7	5.5	3.0	1.1	28.7	1.4
	興味がある職業について調べる機会	あった	438	43.2	40.9	37.4	24.7	21.5	17.4	16.0	13.9	6.4	0.2	12.6	2.2
		なかった	500	39.2	30.2	26.8	19.4	15.6	14.0	8.2	6.2	3.6	0.8	23.8	1.6

# 子供の頃に親や学校から受けた キャリア教育は活かされていたか

社会人2~4年目の方に、就職活動当時に子供の頃に親や学校から受けたキャリア教育は活かされていたかを聞いた。結果は「活かされていた」9.5%、「どちらかと言えば活かされていた」30.1%、「どちらかと言えば活かされていなかった」29.5%、「活かされていなかった」30.9%となった。「どちらかと言えば」の選択肢をそれぞれまとめると、「活かされていた（どちらかと言えば含む/以下同）」が39.6%、「活かされていなかった（どちらかと言えば含む/以下同）」が60.4%である（図17.1）。

これを現在の仕事の充実度との関係でみると、現在の仕事が充実している回答者は「活かされていた」が46.9%となり、現在の仕事が充実していない回答者より22.8ポイント割合が高くなっている（図17.2）。

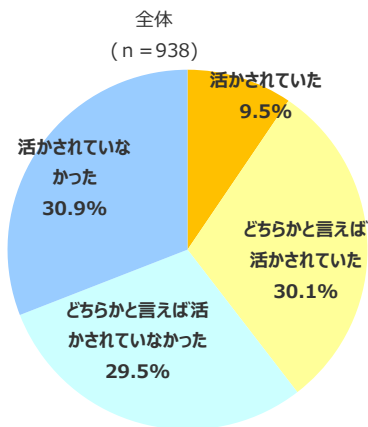
また、小学校5-6年生当時に家庭であったキャリア教育の機会との関係でみると、いずれも家庭内でキャリア教育の機会が「あった」回答者の方が、「なかった」回答者よりも「活かされていた」との回答割合が高くなっている。

具体的にみていくと、親から仕事の話を聞く機会が「あった」回答者は「活かされている」が51.2%と「なかった」回答者より22.9ポイント高くなっている（図17.3）。

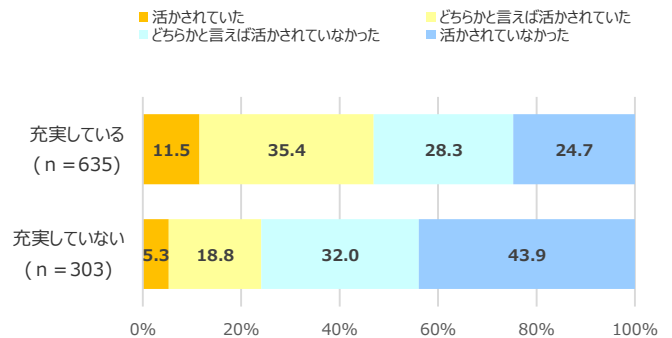
同様に、大人の働いている姿を見る機会では27.5ポイント（図17.4）、いろいろな職業があることを教えてもらう機会では30.4ポイント（図17.5）、職業選択の道筋を教えてもらう機会では24.6ポイント（図17.6）、将来の夢について考える機会では24.5ポイント（図17.7）、興味がある職業について調べる機会では24.7ポイント（図17.8）と、いずれも家庭内でキャリア教育の機会が「なかった」回答者より20~30ポイント程度高くなっていた。

なかでも、いろいろな職業があることを教えてもらう機会、職業選択の道筋を教えてもらう機会、興味がある職業について調べる機会が「あった」回答者の「活かされていた」割合が高いのは、これらが就職活動の準備に通じるところがあるため、すでに就職活動前から心構えに影響していたのかもしれない。

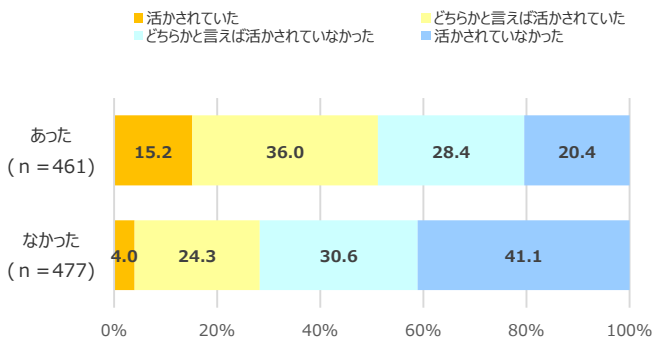
【図17.1】就職活動当時に、子供の頃に親や学校から受けたキャリア教育は活かされていたか



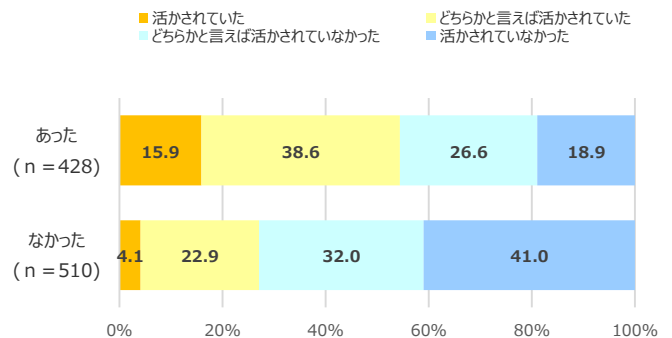
【図17.2】就職活動当時に、子供の頃に親や学校から受けたキャリア教育は活かされていたか  
：現在の仕事の充実度別



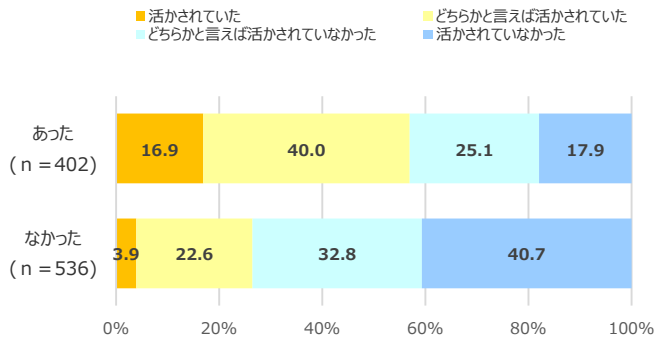
【図17.3】就職活動当時に、子供の頃に親や学校から受けたキャリア教育は活かされていたか  
：親から仕事の話を聞く機会の有無別



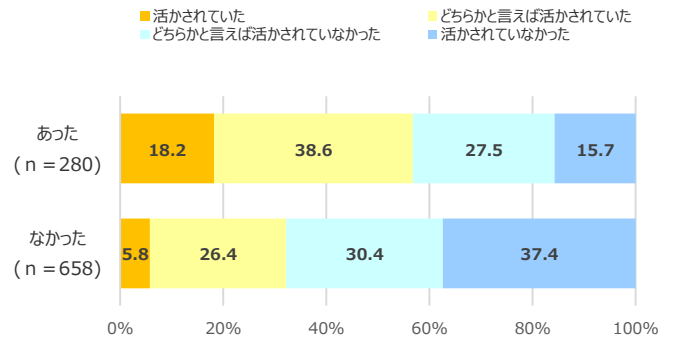
【図17.4】就職活動当時に、子供の頃に親や学校から受けたキャリア教育は活かされていたか  
：大人の働いている姿を見る機会の有無別



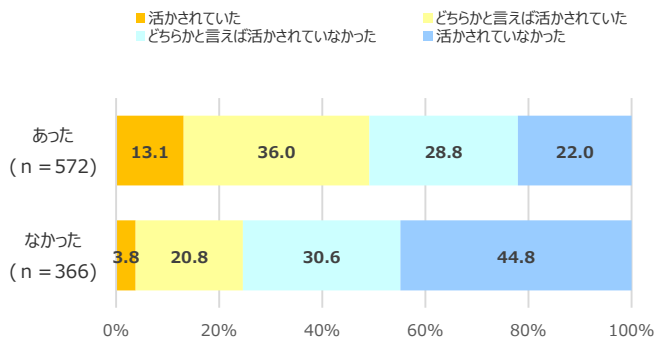
【図17.5】就職活動ときに、子供の頃に親や学校から受けた  
キャリア教育は活かされていたか  
：いろいろな職業があることを教えてもらう機会の有無別



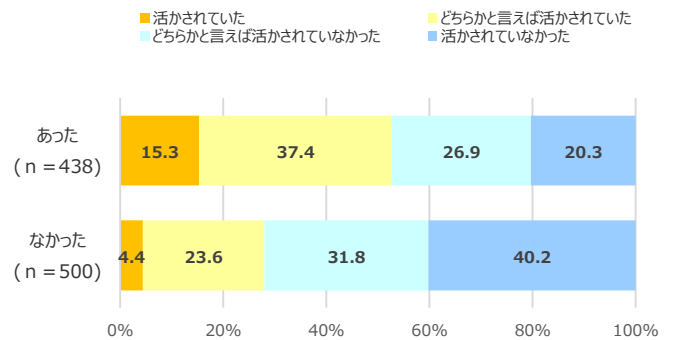
【図17.6】就職活動ときに、子供の頃に親や学校から受けた  
キャリア教育は活かされていたか  
：職業選択の道筋を教えてもらう機会の有無別



【図17.7】就職活動ときに、子供の頃に親や学校から受けた  
キャリア教育は活かされていたか  
：将来の夢について考える機会の有無別



【図17.8】就職活動ときに、子供の頃に親や学校から受けた  
キャリア教育は活かされていたか  
：興味がある職業について調べる機会の有無別



## 【FA集】就職活動当時を振り返って

- たくさんインターンシップや合同企業説明会、企業説明会に行って、いろんな話を聞いて、たくさんの方と触れ合ったことで成功した。(26歳女性/社会人2年目)
- 自己分析はいつからでも始められるけど、すぐに終わるものではないので、大学1年からでも自分の性格を見つめる時間を作るのはいいと思う。周りと同じように活動しなくても、自分を強く信じて、自分にとって役立つか、不要かを見極めて活動できたのはよかった。(26歳女性/社会人2年目)
- 知人の紹介で簡単に入れそうでなおかつ給料もよかったので、何も努力せずに入ったことを後悔している。すぐ辞めてしまったので、それならもっと挑戦的なところに向けて就活すればよかった。(24歳女性/社会人2年目)
- すぐ第一志望に受かり、就活をやめてしまった。今では転職を考えているため、あの時もっといろいろな会社を見ておけばよかったと後悔している。(23歳女性/社会人2年目)
- 安心感を求めてついつい名前を知っている企業ばかりをピックアップしてしまっていたが、もっと中小企業にも手を伸ばせば良かったと思う。(25歳女性/社会人4年目)
- 採用担当者だけではなく実際に働いている人の話をもっと聞きに行けばよかったかなと思う。自分の場合は、飲み会が思ったより多く大変。そのような仕事以外の話をもっと聞いておくべきだったと思う。(25歳男性/社会人3年目)
- 興味がない仕事内容や職種、業界だったとしても、企業説明会で話だけでも聞いておいて、こういう仕事があるってことだけでも知っておけばよかった。(27歳女性/社会人4年目)
- 就活支援会社からアドバイスを受けていました。自身の欠点を頭で理解していても実際にそれを客観的に意識して活動することが難しく、客観視できる外部の人がいたことは良かった点だと思っています。(24歳女性/社会人3年目)
- 就職活動が始まる前からインターンシップなどにたくさん参加し気になる業界はすべて内容を知っておくべきだった。クリエイティブな仕事をしたいと思いつつ、文系上がりだからと諦めていたり、都会に憧れているのに地元で就職活動をしたらと思うと裏腹なことをしてしまった。ゆっくり時間をかけて自分に正直に就職活動をしてみればよかった。(24歳女性/社会人3年目)
- スタートが遅かった。本格的に面接や説明会に参加するのは人並みでもいいかもしれないが、自己分析や業界職種研究、世の中にどのような仕事や会社があるのかは早いうちから調べておいたほうがいい。(25歳女性/社会人4年目)
- 若いうちから現実的な将来の自分像を持っていると自ずとその道を歩むので、就活が比較的楽だったのではないかと感じる。(24歳男性/社会人3年目)
- もっといろいろな業種や職種の方の話を聞いて、自分が興味あることは何かを知る時間を増やせばよかったと思います。(27歳女性/社会人4年目)
- ある程度興味のある業界に絞って就職活動をしていたため、食わず嫌いのように他の業界について知らない魅力の後々にたくさん発見した。もっと幅広く、色々な業界を知ってから絞ればよかった。(24歳女性/社会人3年目)
- 自己分析をもっときちんとして、自分が何をしたいのかははっきりさせられていればよかった。はっきりしないのであれば、様々な場所に足を運んで視野を広げるべきだと思った。(23歳女性/社会人2年目)
- もっと視野を広げるためにインターンシップや多くの企業の方の話を聞く、話す経験をして、聞く力、話す力を養うべきだったと思う。(25歳男性/社会人4年目)
- 面接対策が不十分だったのもあるけれど、一番当時ダメだったと思うのは働いてる人(特に採用担当者)と学生である自分自身に大きな差があると錯覚していたことだと思います。働いてわかるけれど、社会人でも子供より質の悪いわがままを言う人や常識のない人が多い。社会人を過大評価せず、同じ人間として対峙していたら、わざとらしい言葉や雰囲気にも呑まれることなく、自己分析しながら進められたかなと思います。(25歳男性/社会人4年目)
- 大学時代勉強していたことと、あまり関係のない仕事をしているので、先にやりたい仕事を明確にしてから、それに合わせて勉強してこれれば良かったなと思っています。(25歳女性/社会人3年目)
- 自分を知ることがまずは一番大切なことだと思います。自分のニーズがどこにあるかわからないと、行きたい会社もわからない、気持ちが入らないまま面接に行っても、落ちます。現在は採用も担当しますが、経験値や学歴があればもちろん得ますが、何より重視するのは会社の毛色に合っているか、やる気があるか。会社によるとは思いますが、早いうちから裁量が持てるような会社(言わずもがなそういった場所の方が給料も高くなることが多いかと)は上記を重視すると思います。(25歳女性/社会人4年目)